



|              |                                                                             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| Title        | 中国のヤオイ情報誌：『菠萝志』を中心に                                                         |
| Author(s)    | 銭, 蕾                                                                        |
| Citation     | 言語文化共同研究プロジェクト. 2022, 2021, p. 47-58                                        |
| Version Type | VoR                                                                         |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/88392">https://doi.org/10.18910/88392</a> |
| rights       |                                                                             |
| Note         |                                                                             |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 中国のヤオイ情報誌 ——『菠萝志』を中心に<sup>1</sup>——

銭 蓆

## 1. はじめに

日本において、ヤオイとは一般的には男性同士の恋愛関係を描いた女性向けの小説、マンガ、アニメ、ドラマ CD やゲーム、映画などの創作物を指し、近年では BL<sup>2</sup>という呼称でも知られている（東 2015:154）。ヤオイは日本を起源として 50 年近い歴史を持ち、現在では異なる言語と文化を持つ海外でも人気を得ている。中国におけるヤオイの受容は、1990 年代に日本のヤオイに影響を受けて広まり始め、インターネットの普及とともに 2010 年代から幅広く浸透している。ところで、ヤオイは日本では商業的に流通しているのに対し、同性愛表現の検閲が強化される現在の中国大陸ではそうではない。そのため、中国大陸ではヤオイを中心に扱う商業的に流通していた数少ない出版物として、2010 年代前半までに販売されていた中国大陸のヤオイ情報誌を取り上げる価値があると考えられる。

本稿では、中国大陸において商業的に流通されていたヤオイ情報誌の一例として、2010 年前後に販売されていた中国大陸のヤオイ情報誌『菠萝志』を分析対象とする。具体的には、まず『菠萝志』出版の背景を紹介し、中国大陸のヤオイ情報誌における『菠萝志』の特徴を把握する。次に、『菠萝志』のタイトル、発売時期、購入方法、構成などを概観する。そして、『菠萝志』のコラム内容を整理することで、2010 年代前後の中国大陸のヤオイ愛好者が主にどのようなヤオイコンテンツを消費したのか、またどのようなコンテンツをヤオイとして扱ったのかを明らかにする。

## 2. 中国大陸のヤオイ情報誌

### 2.1 日本オタク文化を紹介する情報誌

中国大陸におけるヤオイ受容の初期は日本のオタク文化と深い関連を持つ。中国大陸におけるヤオイ情報誌を把握する前に、まず中国大陸における日本オタク文化を紹介する情報誌を概観する。

---

<sup>1</sup> 本稿は、筆者の 2020 年 3 月の博士学位論文『中国におけるヤオイの受容—関係性消費：物語消費論からのアプローチ—』の内容の一部を基に書き改めたものである。

<sup>2</sup> 和製英語 BOYS-LOVE の略称。本稿では、「ヤオイ」を総称として広義の意味で用い、その中で作者が独自に考案したオリジナルの作品は「BL」、二次創作の作品に限定する場合は「二次創作のやおい」と表記する。

1990年代後半まで、海賊版により中国大陸で流通された日本のマンガは莫大な数に登り、VCDやDVDの出現により、中国大陸における日本のマンガ・アニメの影響は一層広がっていった（化 2012）。それを背景に、中国大陸において日本のオタク文化などを紹介する出版物も出現した。1997年に創刊されたマンガ・アニメ情報誌『漫友』を始め、2010年前後に数え切れないほどのオタク情報誌が発売されていた。それらの情報誌は中国のマンガ、同人小説、コスプレなどの中国オリジナルのオタク文化も紹介されたが、日本のオタク文化をメインとする雑誌の種類が多数を占めた。

## 2.2 ヤオイ情報誌の出現

2000年以降、中国大陸における日本のオタク文化を紹介する情報誌の数が増えるとともに、読者の趣味に合わせ、日本のオタクコンテンツの一種や二種（アニメ、マンガ、ゲーム、コスプレ、フィギュア、声優など）を中心に取り上げる専門情報誌も続々出現した。例えば、前述したマンガ・アニメ情報誌『漫友』は、2005年増刊号として『漫友 COSPLAY100』の発売を開始した。

このような状況の中で、ヤオイ専門情報誌もいくつか誕生した。まず、2002年に中国大陸における最初のオリジナルなヤオイ情報誌である『耽美季节』（月刊誌）が創刊された（苏 2009:15）。その後、『最爱』と『阿多尼斯』の二冊の月刊誌も創刊された。この三つの雑誌は同じく日本のヤオイ情報を提供するが、『耽美季节』と『最爱』は中国語に翻訳された日本のヤオイマンガを連載することがメインであり、『阿多尼斯』では主に日本のヤオイ小説が翻訳されており、後に中国のヤオイ小説も連載を開始した。そして、2000年代の末になると、中国大陸における日本のオタク文化を取り扱う情報誌の姉妹誌としてのヤオイ情報誌が次々と出版された。例えば、2009年2月にマンガ・アニメ情報誌『看动漫』の編集部が制作した『菠萝志』、マンガ・アニメ・ゲーム情報誌『二次元狂热』の姉妹刊行物である『801 彼女』<sup>3</sup>、また2009年9月にアニメ情報誌『动画萌王』に付属する『最彼女』などがある。表1では、2009年に発売開始の上記の3誌を比較する（表1）。

表1 2009年に発売開始のヤオイ情報誌の比較

| 雑誌名      | 共通点  | 内容の特徴                                                        |
|----------|------|--------------------------------------------------------------|
| 『菠萝志』    | 女性向け | 二次元をはじめ、世の中のあらゆる物と関連するヤオイ                                    |
| 『801 彼女』 |      | 主にマンガ・アニメ・ゲームなどの二次元と関連するヤオイ                                  |
| 『最彼女』    |      | ヤオイのみならず、オタク女子向け <sup>4</sup> 、乙女向け <sup>5</sup> のコンテンツも含まれる |

<sup>3</sup> この雑誌のタイトルは、日本のウェブコミックである『となりの801ちゃん』に由来している。数字の「801」は日本語の数字の語呂あわせで「ya o i」と読むことができる。

<sup>4</sup> 女性オタク全体に向けた創作物。

<sup>5</sup> 女性を対象とし、男女の恋愛関係を描く創作物。

表1でわかるように、この三つの情報誌の共通点はヤオイコンテンツを紹介する情報誌であり、またターゲットの読者は女性であること。『最彼女』は主にヤオイに関する内容だが、一般のオタク女子向けの内容と乙女向けの内容も含まれる。そのため、『最彼女』に比べると、『菠萝志』と『801 彼女』はより本格的なヤオイ専門情報誌であることがわかる。また、『801 彼女』は主にマンガ・アニメ・ゲームなどの二次元と関連するヤオイのコンテンツを紹介しており、『菠萝志』は二次元のみならず、一般向けの映画やドラマ、身近の出来事、古代の逸聞、星座などの幅広いコンテンツと関連するヤオイを紹介する。ゆえに、この3種類の情報誌の中で、『菠萝志』は最も豊かかつ包括的なヤオイ情報誌だと言えよう。

本稿では、筆者が最も収集できたヤオイ情報誌である『菠萝志』（全46刊中24刊を所有している）を扱う（表2）。

### 3 『菠萝志』の概要

『菠萝志』は2009年2月から2013年7月まで発売されていた月刊誌である。出版社は「北京中体音像出版中心」（この出版社は他の日本オタク文化を紹介する情報誌も幾つか出版していた）で、第1号から第45号までは雑誌の裏表紙には出版社コードであるISBNコードもついている。

#### 3.1 『菠萝志』というタイトル

『菠萝志』は雑誌のタイトルである。「菠萝」はフルーツの「パイナップル」のことで、中国語の発音をピンインで書くと[ bō luó ]になる。もしピンインのそれぞれの最初のアルファベットを取ると、「B L」というアルファベットの並びになる。前述のように、近年ではヤオイは「BL」という呼称でも知られている。つまり、「菠萝」は「BL」という暗号が含まれており、ヤオイと関連づけることのできる隠語だと考えられる。また『菠萝志』の「志」は日本語の「誌」にあたり、何かを記述する意味を持つ。つまり、『菠萝志』というタイトルは一見フルーツのパイナップルに関連するコンテンツが連想しやすいが、実際は「ヤオイを語る」という意味が隠れている。

表2

収集した『菠萝志』一覧表

| 刊行号数 | 発売号      |
|------|----------|
| 00   | 2009年2月  |
| 01   | 2009年5月  |
| 02   | 2009年6月  |
| 03   | 2009年7月  |
| 08   | 2009年12月 |
| 11   | 2010年3月  |
| 12   | 2010年4月  |
| 13   | 2010年5月  |
| 15   | 2010年7月  |
| 16   | 2010年8月  |
| 17   | 2010年9月  |
| 18   | 2010年10月 |
| 19   | 2010年11月 |
| 20   | 2010年12月 |
| 21   | 2011年1月  |
| 22   | 2011年2月  |
| 23   | 2011年3月  |
| 24   | 2011年4月  |
| 27   | 2011年7月  |
| 28   | 2011年8月  |
| 29   | 2011年9月  |
| 31   | 2011年11月 |
| 34   | 2012年2月  |
| 35   | 2012年3月  |

### 3.2 発売時期・販売価格・購入方法

表3で示すように、2009年2月に『菠萝志』の00号、いわゆる創刊号が出版された。2009年5月から2012年7月までは各月に発売されていた。しかし、規制強化により一時休刊となった。その後、2012年12月から再び一時復刊したが、発売の時期は不規則になり、2013年7月号をもって発売停止になった。

表3 『菠萝志』の発売時期一覧表

| 刊行号数  | 発売時期                    |
|-------|-------------------------|
| 00    | 2009年2月                 |
| 01-39 | 2009年5月 — 2012年7月（各月）   |
| 40-45 | 2012年12月 — 2013年7月（不定期） |

『菠萝志』の販売価格は1冊25元（人民元）である。通信販売、オンラインショップ、新聞や雑誌などを売るキオスクから購入するなどの購入方法が存在する。キオスクで扱う雑誌の種類はキオスクごとに違うため、キオスクでヤオイ情報誌『菠萝志』を購入する場合は、偶然発見や店主に依頼するという主に二つのパターンがある。特に後者は、学校の近くあるいは校内にあるキオスクでよく見られる購入方法である。

### 3.3 『菠萝志』の構成

『菠萝志』は主に雑誌、付録及びアンケート用紙の三部分で構成されている。

(1) 雑誌は、表紙、目次及び120ページの本文を含め、すべてがカラーページである。

(2) 付録は雑誌を購入すると同時にもらえるプレゼントである。付録の内容は毎回変化するが、よく見られる組み合わせは「女性向けのドラマCDやBL CD<sup>6</sup>（中国語翻訳の別冊付き）、ポスター、ノートや貼紙などの小物」、「1作品のDVD、1作品のBL CD（中国語翻訳の別冊付き）、ポスター、ノートや貼紙などの小物」などがある。

(3) アンケート用紙はモノクロの紙媒体であり、郵送の形で編集部に戻送できる。主に個人の基本情報、雑誌に対する意見あるいは要望、個人の好み（好きなヤオイ作品、作者、雑誌のコラムなど）及び感想という四つの部分が含まれている。

---

<sup>6</sup> BL CDとはCDに音声のみの、女性向けの男性同士の恋愛関係を描いたドラマを収録したものを指す。「BLドラマCD」、「BL Drama CD」、「BL Drama」とも呼ばれるが、本稿では表記を簡便にするため「BL CD」と表記する。

## 4 『菠萝志』の内容

『菠萝志』において、毎月の雑誌のコラムの数は 30 前後で、コラムの内容はほぼ毎月同じである。各コラムで取り上げられるコンテンツ（作品など）は毎月変わるが、取り扱われるコンテンツの種類は決まっている。ここでは『菠萝志』第 12 期（2010 年 4 月号）を一つの具体例として、コラムの内容をページ順に示す（表 4）。

### 4.1 多様なメディア形態と多地域のコンテンツ

表 4 で示すように、典型的な『菠萝志』の構成が見られる第 12 期は中国大陆のヤオイ愛好者に向けて様々なヤオイコンテンツを扱っている。それらは、マンガ、小説、アニメ、映画、テレビドラマ、絵、コスプレの写真、BL CD などのメディア形態をとっている。第二に、コンテンツの製作国として、日本のアニメ、マンガ、小説、BL CD などのコンテンツが第 12 期のコラム内容の半分以上を占めている。このことから『菠萝志』では日本のヤオイコンテンツが中心的に扱われていることがわかる。同時に、1990 年代に流入した日本のヤオイ（主にマンガと小説）が 2010 年代前後の中国大陆において幅広いメディア形態で受容されていることもうかがえる。日本のヤオイコンテンツ以外に、中国のオリジナルのヤオイ小説、コスプレの写真、日常生活におけるヤオイエピソードなどのコンテンツも毎回登場している。第三に、LGBTQ（特にゲイ）に関連するコンテンツも積極的に扱っている。ゲイ映画、ゲイドラマなどの作品の公開情報や紹介のみならず、話題になるゲイニュースも毎月ピックアップし、言及される地域はほぼ全世界である。第四に、男性同士の恋愛を扱っていないコンテンツも多数出ている<sup>7</sup>。例えば、ヤオイとして見られる作品の紹介というコラムにおいて、一般向けの日本のアニメ<sup>8</sup>や中国、日本、韓国、アメリカ、イギリスなどのドラマ<sup>9</sup>、英語圏や中華圏などの人気映画<sup>10</sup>、などの作品を取り上げている。作品以外に、身近な日常エピソードや中国歴史上の男性同士の逸聞などのコンテンツも見られる。ここからわかるように、『菠萝志』が中国大陆のヤオイ愛好者のために用意している（ヤオイあるいはヤオイとして見られる）コンテンツは、日本の作品がメインではあるが、多言語多地域にわたっている。また、ヤオイとして消費されるコンテンツには、女性向けのヤオイのみならず、ゲイコンテンツ、一般向けの作品も含まれる。

<sup>7</sup> 「中国大陆のヤオイ愛好者は男性同士の恋愛が提供されたコンテンツ（作品、絵、エピソードなど）以外に、男性キャラクターたちをメインとする作品も積極的に消費する。例えば、『SLAM DUNK』（集英社）、『テニスの王子様』（集英社）、『NARUTO』（集英社）などの日本の少年マンガ、『SHERLOCK』（BBC 製作）などのイギリスのテレビドラマ、『X-MEN』シリーズ（20 世紀フォックス製作）、『アベンジャーズ』シリーズ（マーベル・スタジオ製作）などのアメリカの映画もお気に入りのコンテンツとして消費している。ヤオイ愛好者はこれらの非ヤオイ作品を消費しながら、ヤオイの物語として楽しんでいる。ヤオイ愛好者は物語に対する独特の読み取り方によって楽しむことができるのである。」（銭 2020 : 96）

<sup>8</sup> 『菠萝志』第 12 期：日本テレビアニメ『デュラララ!!』（DURARARA!!）（TBS 系列、2010 年）。

<sup>9</sup> 『菠萝志』第 12 期：日本テレビドラマ『コード・ブルー -ドクターヘリ緊急救命-』2nd season（フジテレビ、2010 年）、等々。

<sup>10</sup> 『菠萝志』第 12 期：ロバート・ダウニー・Jr 主演の映画版『シャーロック・ホームズ』（ガイ・リッチー監督、2009 年）。

表4 『菠萝志』第12期（2010年4月号）コラムの内容

| ページ        | コラムの内容                                        |
|------------|-----------------------------------------------|
| pp.00-01   | 目次                                            |
| pp.02-03   | 巻頭語                                           |
| pp.04-07   | ヤオイ作品（アニメ、BL CD など）の発売、映像化などの最新情報             |
| pp.08-17   | ヤオイとして見られる最新作品の紹介（アニメ、ドラマ、映画など）               |
| pp.18-27   | 日本の BL 名作 <sup>11</sup> （マンガや小説）の紹介           |
| pp.28-35   | 日本の BL 作品における定番カップリング <sup>12</sup> の紹介及び代表作品 |
| pp.36-37   | 身近な日常エピソードのヤオイ目線での解説                          |
| pp.38-43   | 日本の BL マンガ作者中村春菊の紹介（詳細）                       |
| pp.44-47   | 日本のイラストレーターのインタビュー（中国語の翻訳）                    |
| pp.48-61   | 日本の女性向け作品のイラスト                                |
| pp.62-67   | 日本の少年マンガにおける二次創作のやおい <sup>13</sup> の紹介        |
| pp.68-69   | 日常生活におけるヤオイエピソード                              |
| pp.70-73   | 日本の男性声優の紹介（5名）                                |
| pp.74-75   | 日本の BL マンガ作者松本ミーコハウスの紹介（簡潔）                   |
| pp.76-79   | 日本の BL 新刊の推薦（BL マンガ 6 点、BL 小説 6 点）            |
| pp.80-81   | 中国歴史上の男性同士の逸聞                                 |
| pp.82-87   | 日本の BL マンガ作者のインタビュー <sup>14</sup> （中国語の翻訳）    |
| pp.88-89   | 星座占いのヤオイ的解説                                   |
| pp.90-93   | 中国のコスプレの写真、コスプレイヤーの紹介                         |
| pp.94-101  | 中国のオリジナル BL 小説                                |
| pp.102-103 | 日本の BL マンガ（4 コマ漫画、中国語の翻訳）                     |
| pp.104-105 | LGBTQ ニュース、ヤオイに関連する芸能界ニュースなど                  |
| pp.106-109 | 中国のイラストレーターのインタビュー                            |
| pp.110-111 | ハリウッド映画のヤオイ的解説                                |
| pp.112-115 | 昔の少女マンガ名作のヤオイ的解説                              |
| pp.116-117 | ギリシア神話における男性同士のロマンスの紹介                        |
| pp.118-120 | 読者投稿、編集者のコメントなど                               |

<sup>11</sup> 『菠萝志』第12期：日本のライトノベルシリーズ『炎の蜃気楼』（コバルト文庫）、及びこれを原作とするマンガ、アニメ、ドラマ CD、二次創作のやおいなどの関連コンテンツ。

<sup>12</sup> カップリングとは、「男性キャラクター二人を組み合わせるカップルにし、能動側の「攻(せめ)」と受動側の「受(うけ)」という役割を割り振ることである」（東 2015：165-166）。

<sup>13</sup> 『菠萝志』第12期：日本マンガ『銀魂』（集英社）におけるカップリングの紹介。

<sup>14</sup> 『菠萝志』第12期：日本マンガ作者中村明日美子。

#### 4.2 『菠萝志』におけるヤオイコンテンツの種類

そこで、本稿はヤオイ情報誌『菠萝志』におけるコンテンツ内容をヤオイの概念に基づいて、以下四つの枠組みに分類する。

##### (1) 女性向けのヤオイそのもの

(BL アニメ、BL マンガ、BL 小説、BL CD、BL ゲーム、BL 作品を原作とする実写映像作品や舞台、二次創作のやおいなどの作品紹介)

##### (2) 女性向けのヤオイに関連するもの

(作者のモノグラフィー、作者インタビューの翻訳、声優の紹介、声優のインタビューの翻訳などのヤオイ作品の担い手の紹介、BL 作品の発売情報やニュースなど)

##### (3) ゲイコンテンツ

(ドラマ、映画などの紹介、またはニュース・情報などの提供)

##### (4) ヤオイとして見られるもの

(男性同士の恋愛関係を扱わない非ヤオイコンテンツをヤオイとして解説するコンテンツの紹介。例：①ヤオイの作品ではないが、アニメ、ドラマ、映画などの作品をヤオイ作品として解説する ②中国歴史上の男性同士の逸聞 ③身近な日常エピソードのヤオイ目線での解説 等々)

以上 4 種類のコンテンツはヤオイ情報誌『菠萝志』の中で区別して分類されることなく、各コラム、特に作品紹介のコラムにおいて、一緒に並んでいることが多い。例えば、『菠萝志』は年ごとに「年間作品のまとめ」という特集コラムを出している<sup>15</sup>。その中で、アニメ作品、ドラマ作品、映画作品における「年間作品のまとめ」の特集コラムでは、女性向けのヤオイ作品、ゲイ作品、ヤオイとして見られる作品が一緒に紹介されることが非常に多い。『菠萝志』第 23 期 (2011 年 3 月号) における 2010 年度の特集コラム「年間作品のまとめ」を例に説明する (表 5)。

---

<sup>15</sup> 筆者が収集できた「年間作品のまとめ」の特集コラムは 2009 年度 (第 11 期 2010 年 3 月号)、2010 年度 (第 23 期 2011 年 3 月号)、2011 年度 (第 34 期 2012 年 2 月号、第 35 期 2012 年 3 月号) のものである。

表 5 『菠萝志』第 23 期（2011 年 3 月号）特集コラム「年間作品のまとめ」の一覧表

| コラムの内容                  | ページ        | 総数    | 備考                        |
|-------------------------|------------|-------|---------------------------|
| 年間アニメ                   | pp.4-9     | 10    | 一般作品 7 点、BL 作品 3 点        |
| 年間日本ドラマ                 | pp.10-13   | 10    | すべてが一般作品                  |
| 年間欧米ドラマ                 | pp.14-17   | 10    | すべてが一般作品                  |
| 年間映画                    | pp.18-19   | 6     | 一般作品 5 点、ゲイ作品 1 点         |
| 年間 BL マンガ作者             | pp.32-41   | 10    | すべてが日本の BL マンガ作者          |
| 年間 BL マンガ               | pp.62-73   | 20    | すべてが日本の BL マンガ            |
| 年間声優                    | pp.84-89   | 50 以上 | すべてが日本の男性声優 <sup>16</sup> |
| 年間 BL CD                | pp.90-95   | 20    | すべてが日本の BL CD             |
| 年間女性向けゲーム <sup>17</sup> | pp.108-115 | 13    | すべてが日本のゲーム作品              |

表 5 で示すように、2010 年度の「年間作品のまとめ」の特集コラムにおいて、計 9 個のコラムが取り上げられている。この 9 個のコラムにおけるヤオイコンテンツはヤオイ情報誌『菠萝志』が扱う雑誌内容の中では欠かせない存在であり、ゲームを除きほぼ毎号において登場しているコンテンツでもある。その中で、「年間 BL マンガ作者」、「年間 BL マンガ」、「年間声優」、「年間 BL CD」、「年間 BL ゲーム」<sup>18</sup>という五つコラムはすべてが日本の BL 作品、及びそれら作品の担い手を紹介する内容であり、全 9 個のコラム中で半数以上を占めている。また、「年間アニメ」に登場した BL 作品もすべてが日本の BL アニメである。この「BL アニメ」、「BL マンガ」「BL CD」、「BL ゲーム」という 4 個のヤオイコンテンツは前述の「(1)女性向けのヤオイそのもの」に、「BL マンガ作者」、「BL CD の声優」という 2 個のヤオイコンテンツは前述の「(2)女性向けのヤオイに関連するもの」に、分類することができる。以上のことから、『菠萝志』における女性向けのヤオイコンテンツの中では、日本の商業 BL 作品、特に BL アニメ、BL マンガ<sup>19</sup>、BL CD、BL ゲーム、及びそれらの担い手が最も大きな割合を占めているのがわかる。これらのメディア形態<sup>20</sup>の日本 BL 作品は当時の中国大陸のヤオイ愛好者にとっても重要なヤオイコンテンツだといえよう。

<sup>16</sup> ほぼ全員が出演した BL CD 作品を通して紹介されている。

<sup>17</sup> 2010 年に発売の BL ゲーム（計 2 点）は極少ないため、乙女向けのゲームとあわせて「年間女性向けゲーム」という特集コラムを出している。この特集コラムの構成は前 3 ページ（pp.108-110）の「年間 BL ゲーム」と、後 5 ページ（pp.101-115）の「年間乙女ゲーム」という二つのカテゴリーに分けられている。

<sup>18</sup> コラム「年間女性向けゲーム」の中で、2010 年に発売された BL ゲーム 2 点を紹介しており、2010 年に発売予定だったが発売できなかった BL ゲーム 2 点を言及している。

<sup>19</sup> 表 4 から BL マンガ及び BL マンガ作者が『菠萝志』第 12 期（2010 年 4 月号）では頻繁に取り上げられることがわかる

<sup>20</sup> 中国大陸のオリジナルヤオイコンテンツは 1990 年代に小説から始まり、2008 年以降中国大陸のヤオイ小説は量的にも質的にも大きな発展が見られる（張 2015:32）。BL 小説というメディア形態において、2010 年代前後の中国大陸では日本の BL 小説より中国の BL 小説のほうが優位を占めている。

一方、非女性向けのコンテンツを含むコラムではすべてが映像作品を扱っている。その中で、「年間アニメ」の7点、「年間日本ドラマ」と「年間欧米ドラマ」の全点、「年間映画」の5点が男性同士の恋愛を含まない非ヤオイ作品を取り扱っている。これにもかかわらず、この4個のコラムを前述の女性むけのコラムと同じく「年間特集コラム」として取り上げている。しかも、各コラムにおける取り上げる作品に対して、「これはBL」、「これは二次創作のやおい」、「この作品はもともと男女の恋愛物語」などの説明は一切ない。例えば、「年間アニメ」コラムにおいて計10点の日本のアニメ作品が放映順で並んでいる。その中で、『デュラララ!!』、『ぬらりひょんの孫』、『戦国BASARA 弐』、『黒執事 II』などのような一般向けのアニメ作品7点と、『恋する暴君』などのような女性向けのBLアニメ作品3点を、同コラムの中で同様に扱うことは非常に興味深い。日本の商業BL作品において、マンガ、小説、BL CDのメディア形態と比べ、BLアニメの数は極めて少ない。そのため、ヤオイ愛好者はBLマンガ、BL小説、BL CDのように選び放題でBLアニメ作品を楽しむことができない。ところで、日本のアニメというジャンルの中で、年間に制作される一般向けのアニメ作品数はBLアニメよりはるかに多い。その中で、男性キャラクター間の恋愛は描かれてはいないが、男性キャラクター間の深い絆を描写する一般向けのアニメ作品が多数存在している。「年間アニメ」の記事は、このような作品を7点取り上げており、BLアニメのようにこの7点のアニメ作品における男性間の各カップリングに焦点をあて、男性キャラクター間の関係を恋愛関係のように語っている。そのため、記事の読者、特にまだこれらのアニメ作品を見ていない読者にとっては、この「年間アニメ」コラムにおける10点のアニメ作品は区別なく、すべてがBLアニメだという錯覚が生じやすい<sup>21</sup>。つまり、『菠萝志』では「(1)女性向けのヤオイそのもの」と「(4)ヤオイとして見られるもの」をヤオイコンテンツとして同様に扱っていることを示している。

「年間アニメ」のようなコラムにおける作品の種類とは関係のない並び方は、「年間映画」のコラムにもある。「年間映画」のコラムでは、国内篇と国際篇という二つのカテゴリーに分ける。コラムの記事は国内篇では中華圏の一般向けの映画4点<sup>22</sup>、国際篇ではアメリカのゲイ映画1点<sup>23</sup>と一般向けの映画1点<sup>24</sup>、という順番で映画作品を取り上げる。実は、厳密に言うところの合計6点の映画作品はすべてが非ヤオイ作品だが、コラムの記事ではすべてがヤオイコンテンツとして紹介されている。まず男性同士の恋愛が存在しない映画作品に関しては、前述の一般向けのアニメ作品のように男性キャラクター間の関係に注目しており、ヤオイ物語として解説している。例えば、異性愛のロマンスを中心に扱う青春映

<sup>21</sup> 特に『黒執事』シリーズのような繊細な絵柄で男性キャラクター間の関係を曖昧に表現する（恋人に連想しがちなセリフや仕草などの描写が多い）作品。現在の中国のSNS上においてもアニメ『黒執事』シリーズをヤオイ作品として扱うヤオイ愛好者が多い。また、アニメ『黒執事』を通じてBLを知ったなどのネット発言も度々見られる。

<sup>22</sup> 『さらば復讐の狼たちよ』（姜文監督、2010年）『イップ・マン 葉問』（ウィルソン・イップ監督、2010年）、等々。

<sup>23</sup> 『フィリップ、きみを愛してる!』（グレン・フィカーラ、ジョン・レクア監督、2009年）

<sup>24</sup> 『ステップ・アップ 3』（ジョン・チュウ監督、2010年）

画『ステップ・アップ 3』に対して、コラムの記事は映画の中で描かれた異性愛関係ではなく、男性キャラクター間の仲間関係やライバル関係に焦点をあて、特にダンスバトルの対戦相手同士が敵対関係から認め合う信頼関係に変化していくサブストーリーラインを男性キャラクター間の恋愛関係の成立と進展を描く物語として解釈している。一方、ゲイコンテンツに関しては、映画『フィリップ、きみを愛してる!』は主人公がゲイで保険金詐欺により投獄され、刑務所で一目惚れした相手のフィリップと恋人になり、恋人のために詐欺と脱獄を繰り返すというストーリー内容だが、コラムの記事はこの常軌を逸した物語を取り上げる際に、男性同士の恋愛関係に着目し、皮肉な運命に翻弄される主人公の物語をコメディタッチの恋愛物語として紹介している。このように、『菠萝志』では「(4)ヤオイとして見られるもの」と「(3)ゲイコンテンツ」を同様にヤオイコンテンツとして扱っていることがうかがえる。

#### 4.3 まとめ及び中国ヤオイの現状との繋がり

4.2 節でわかるように、第一に、女性向けのヤオイ作品を含め、ヤオイとして見られる作品、ゲイ作品も『菠萝志』ではヤオイコンテンツとして重要な役割を果たしていることを示している。第二に、『菠萝志』が扱う男性キャラクター間の恋愛が既存する女性向けの作品は主に日本の商業 BL 作品がメインである。第三に、2010 年代前後においてヤオイの映像作品が極めて少ないという状況の中で、一般向けのアニメ、ドラマ、映画などの映像作品をヤオイ作品として解説する傾向が見られる。また、(主にゲイ) 映像作品における男性同性愛者のストーリーライン(主に恋愛関係)をヤオイ物語として楽しむ一面もうかがえる。第四に、男性キャラクター間の恋愛を含まない作品をヤオイとして見られる映像作品及びゲイ映像作品の場合は、日本のみならず中国や欧米などの映像作品も積極的に取り入れられている。このことは 2010 年代後半の中国のヤオイファンダムにおける主の三つのサークル<sup>25</sup>の形成にもリンクしていると言えるだろう。第五に、女性向けのヤオイ作品、ゲイ作品、ヤオイとして見られる作品を、ヤオイ情報誌『菠萝志』では区別せず扱っており、同コラムの中でともに並べて紹介していることは普通である。日本のヤオイ研究におけるヤオイに対する定義から見ると、それらのジャンルの違う作品を同雑誌で、さらに同コラムで同様に扱うことは非常に奇妙なこともかもしれない。おそらく当時の中国のヤオイ愛好者の立場から見れば、それらの作品はすべてが男性同士の恋愛関係を描写しているという表象を持ち、(直接または工夫して) ヤオイとして消費できる作品である。そのため、分類する発想はなかったであろう。そして現在においても、女性向けのヤオイ作品、ゲイ作品、ヤオイとして見られる作品を、作品の区別を特に意識せずにそれらを消費している中国大陆のヤオイ愛好者は極めて多い。このことは中国大陆におけるヤオイにま

<sup>25</sup> それぞれは「原耽圈」(中国のオリジナルコンテンツをメインの消費対象とするサークル)、「日系圈」(日本の ACG などを含むコンテンツをメインの消費対象とするサークル)、「欧美圈」(欧米のコンテンツをメインの消費対象とするサークル)である (Lavin 2017 : 8)。

つわる用語の混乱<sup>26</sup>にも影響を与えていると考えられる。

## 5 おわりに

中国大陸のヤオイ情報誌『菠萝志』は「ヤオイガイドブック」のように、読者（当時のヤオイ愛好者）に世の中にどのようなヤオイコンテンツが存在するのか、どのようなコンテンツがヤオイとして楽しめるのか、などを教えてくれる。本稿は、中国大陸のヤオイ情報誌『菠萝志』のコラム内容及び記事を通じて、2010年代前後の中国大陸のヤオイ愛好者が消費するヤオイコンテンツは多言語多地域にわたり、アニメ、マンガ、小説、テレビドラマ、映画、ゲーム、BL CDなどの多様なメディア形態をとっていることを明らかにした。その中で、女性向けのヤオイ作品、特にBLマンガ、BLアニメ、BL CD、BLゲームの場合は、日本のBL商業作品が欠かせない存在である。また、女性向けのヤオイコンテンツの他に、ゲイコンテンツ、ヤオイとして解説するコンテンツもヤオイとして消費しているのである。日本で生まれたヤオイの「女子の、女子による、女子のため」という境界線を越え、中国のヤオイ愛好者に好まれる多様なヤオイにまつわるコンテンツは「日本のコンテンツのみならず、さまざまな地域および世界の作品や有名人などのコンテンツと関連している」（Lavin 2017 : 3）という中国大陸におけるヤオイの現状にも繋がっていると考えられるのである。今後の課題として、2010年代前後の中国大陸におけるヤオイの受容がなぜそれほどフレキシブルなのか、またそれは中国大陸のヤオイ受容の現状とどのようにリンクしているのかを検討していきたい。

## 参考文献

- 東園子（2012）「台北腐女子事情」『女子学研究』女子学研究会, 2, pp.40-57.  
東園子（2015）『宝塚・やおい、愛の読み替え：女性とポピュラーカルチャーの社会学』新曜社  
上野千鶴子（2007）「腐女子とはだれか」『ユリイカ』青土社, 39(7), pp.30-36.  
金田淳子（2007）「やおい論、明日のためにその2」『ユリイカ』青土社, 39(16), pp.48-54.  
化濱（2012）『コスプレでつながる中国と日本—越境するサブカルチャー』学術出版会  
銭蕾（2020）「中国におけるヤオイ愛好者のイギリスドラマ『SHERLOCK』の受容：関係性の抽出と読み替え」『比較文化研究』日本比較文化学会, 139, pp.95-107.

<sup>26</sup> 例えば、中国のSNS上では『モーリス』（ジェームズ・アイヴォリー監督、1987年）、『ブローックバック・マウンテン』（アン・リー監督、2005年）などの映画に「BL」というタグが付けられる。または前述のアニメ作品『黒執事』を「腐劇」（中国大陸のヤオイ用語、ヤオイ映像作品を指す）や「BL」と呼ぶ。

銭蕾 (2021) 「中国のヤオイ愛好者におけるイギリスのイメージ：『腐国』と呼ばれるイギリス」『大阪大学言語文化学』大阪大学言語文化学会, 30, pp.55-70.

張瑋容 (2013) 「『執事喫茶』における『BL 的妄想』とセクシュアリティ：台湾人腐女子の『妄想実践』事例から」『人間文化創成科学論叢』お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科, 15, pp.291-299.

陳怡禎 (2014) 『台湾ジャニーズファン研究』青弓社

長池一美 (2015) 「グローバル化する BL 研究—日本 BL 研究からトランスナショナル BL 研究へ」大城房美編『女性マンガ研究：欧米・日本・アジアをつなぐ MANGA』青弓社, pp.134-152.

西村マリ (2015) 『BL カルチャー論：ボーイズラブがわかる本』青弓社

溝口彰子 (2015) 『BL 進化論：ボーイズラブが社会を動かす』太田出版

Lavin, Maud, Ling Yang, and Jing Jamie Zhao, (eds.) (2017) *Boys' Love, Cosplay, and Androgynous Idols: Queer Fan Cultures in Mainland China, Hong Kong, and Taiwan*, Hong Kong University Press.

苏威 (2009) 『耽美文化在我国大陆流行的原因及其网络传播研究』上海外国语大学硕士学位论文

徐艳蕊・杨玲 (2014) 「腐女“腐”男：跨国文化流动中的耽美、腐文化与男性气质的再造」『文化研究』, 20, pp.3-25.

尤静芳 (2012) 『动画同人创作的传播研究』苏州大学硕士学位论文

张敏 (2015) 『中国大陆耽美小说本土化历程研究』中国海洋大学硕士学位论文

郑丹丹・吴迪 (2009) 「耽美现象背后的女性诉求—对耽美作品及同人女的考察」『浙江学刊』, 6, pp.214-219.

## 参考資料

『菠萝志』北京中体音像出版中心第 08 号 (2009 年 12 月号)

『菠萝志』北京中体音像出版中心第 11 号 (2010 年 3 月号)

『菠萝志』北京中体音像出版中心第 12 号 (2010 年 4 月号)

『菠萝志』北京中体音像出版中心第 19 号 (2010 年 11 月号)

『菠萝志』北京中体音像出版中心第 23 号 (2011 年 3 月号)

『菠萝志』北京中体音像出版中心第 34 号 (2012 年 2 月号)

『菠萝志』北京中体音像出版中心第 35 号 (2012 年 3 月号)